

平成22年度 第2回 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議  
議事概要

平成22年11月8日（月）14:00～17:00

斜里町産業会館 大ホール

1. 開会
2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所 次長
3. 議事

・敷田座長より会議進行について説明、合意。  
（エコツーリズム戦略関係、意見交換、個別会合における検討状況報告の順で進める。）

(1) これまでの検討経過の説明

**資料1：第1回適正利用・エコツーリズム検討会議における合意・課題事項**

(事務局) 資料1、前回の合意・課題事項について説明。

(座長) 第1回の合意・課題事項、進め方等について、意見・質問をいただきたい。

(中川委員) P.3、「⑦公園全体のアクセスコントロール」において上ホロボツとあるが、どこを指しているのか。地名は重要なので、今まで使われている誰がわかる表現にしてほしい。

(座長) 地名の表記について検討してほしい。

(事務局) 内容を確認し修正したいと思う。

今日の会議はここに書かれている前回の合意事項を受け、進められると考えていただきたい。

(羅臼遊漁釣り部会) P.3、⑧「野生動物との関わり方」において次回会合までに議論方法を提示するとあるが、その会合とは今会議のことか。

(事務局) ヒグマについては、ヒグマ保護管理方針検討会で検討したい。希少動物、野生動物との接し方については今回、回答を用意していないが、引き続き考えていきたい。

(羅臼遊漁釣り部会) このような問題は早く検討していただきたい。

(座長) ヒグマの方針については現在、計画らしいものが出来上がった段階であり、検討の同時並行は厳しい。ヒグマの計画が出来次第、次の検討を行うことではどうか。

(羅臼遊漁釣り部会) 鹿に対する懸念が6～7年前からあり、5年かけて対策を検討し回答を出すがあったが、その5年が経ち、現在、鹿が増えすぎて甚大な被害が起きつつある。ヒグマに対してもこのまま保護政策を続け、これから対策を検討するのであれば、対策が出来たときには増えすぎている状況になるのではないか、という心配がある。

(事務局) 明日、ヒグマ保護管理方針検討会を開き、知床半島でヒグマを絶滅させず、人や畜産業への被害をどのように減らしていくか等を検討する。今年中に素案を作成し、来年度には地域との意見交換を行いたいと思っている。

(羅臼遊漁釣り部会) それでは遅いと思う。どのように共存するかという検討ではなく、例えば5頭でたら2頭殺すという具体的な検討が必要と思う。

(座長) 詳しい内容に触れているので全体会議ではなく、個別課題で扱いたい。

(羅臼遊漁釣り部会) 了解。

(座長) 他に意見はあるか。

(知床財団) 確認だが、ヒグマの検討会の中で他の動物との接し方も話合われるのか、また希少動物については事務局引取りとなっているが、その後どのような検討を行い、いつまでに何をするなど整理されていないのか。

(事務局) ヒグマ保護管理方針検討会については、ヒグマを対象としており、他に關しては別に整理をしている。希少動物に關しては、環境省が個別に計画が立っているものについては進めているが、他のものについては明確なスケジュールはもっていない。

(知床財団) ヒグマや希少動物以外の鹿や他の野生動物との接し方の問題が、検討されていないのは納得できない。

(座長) この質問に關しては個別課題の中で行いたいと思う。希少動物、野生動物に關する対応は非常に見えにくい状況なので、質問や指摘があると思う。一方で、ヒグマの管理方針も形作られてきた所なので、一気に全部を行うことは厳しい。またこの会議のテーマを越えると思うので、場合によっては別の会議で行いたい。これ以外に意見はあるか。

(知床エコツーリズム推進協議会) エコツーリズムを語るときに、ガイドやインタープリターの枠組みの等の問題をこの会議の中で検討しないのか。

(座長) 現在エコツーリズム戦略を作っている中で、その中で扱えればと思う。他に意見はあるか。意見が無いようなので、資料1、第1回合意・課題事項の合意を得たということで良いか。(合意) これをベースに第2回目の会議を進めていきたい。

## (2) これまでの活動経緯の報告

### 資料2：知床エコツーリズム推進協議会における検討状況

#### 参考資料2-1：知床が目指すエコツーリズムの将来ビジョン(平成19年3月策定)

#### 2-2：知床エコツーリズム推進実施計画・今後の方針について

#### 2-3：知床エコツーリズム推進実施計画イメージ整理表

(知床財団) 資料2・参考資料2-1・2-2・2-3、これまでの活動経緯について説明。

(座長) 推進協議会の内容について意見は無いか。

(知床羅臼観光船協議会) 推進協議会に観光船協議会のメンバーも入れていただき、今後協力をしていきたい。

(知床エコツーリズム推進協議会) よろしくお願ひしたい。

(座長) エコツーリズム戦略を作る上で、陸域と海域を総合的に作れるかが鍵になる。

(庄子委員) 五湖と合わせ、観光船を利用する人も多いことから、陸と海をセットで考えていかなければならない。

(知床小型観光船協議会) 知床を良くしていくためであれば、推進協議会に参加して協力していきたい。

(座長) 海域での利用についても、エコツーリズム戦略の中では総合して扱い、海域に關係している方も参加することとなったが、事務局としてはこれで良いか。

(事務局) 良いと思う。知床は国際的にも海の世界遺産との評価が高いので、海域

のことにしても触れるべきと考えている。

(座長) 今後、陸と海を同等に協議してエコツーリズム戦略の中で扱いたい。他に意見はないか。

(愛甲委員) 平成 22 年度のエコツーリズム推進の実施状況はどうなっているのか。

(知床財団) 重点的に取り組む項目として「五湖の冬季利用」があるが、これからがシーズンなので調整しているところである。

(知床斜里町観光協会) 冬季利用に関しては、ガイド全てに 100 平方メートル運動の説明を盛り込み、環境保全に関する知識の向上を図っている。一方で雪崩注意報が一律に網走管内で発表されるが、現場の状況に合っていない場合があるので、柔軟な対応がほしい。

(知床羅臼町観光協会) ガイド講習は、今年で 3 年目となるが、海上保安庁の船上安全講習会を冬季前に実施する。羅臼ガイドウィーク開催は今年初めて行ったもので、今までは最少人数に満たなければ実施しない形だったが、一週間、毎日、一人からでも実施するという設定とした。また冬季シーズンにも羅臼ガイドウィークを実施する予定である。また重点事項から外れているが、インフォメーションスタッフ交流会など両町の観光事業に係っている方の研修を年 2 回実施している。

(知床エコツーリズム推進協議会) 知床地区の冬における自然利用を前面に出していきたい。またこれからの自然保護の担い手を考えると、現場に一番近いガイドが現場を作っていくと感じている。ガイドやインタープリターの育成が大きなポイントだと思う。

(愛甲) 実施状況を聞いたのは、これから作るエコツーリズム推進戦略の実施や運用が出来るかを考える上でヒントとなる。実施のよって問題になったことや出来なかったこと、なぜ出来なかったのかの教訓が生かせると思ったからである。

(事務局) これまでの経験は反映できるものと思っている。

(座長) 過去に作成したものは、これからの事業実施について検討した上で、戦略を策定するとき生かすこととする。

### (3) エコツーリズム戦略の説明

#### 資料 3-1 : エコツーリズム戦略の策定意義

#### 資料 3-2 : エコツーリズム戦略の策定の目的

(事務局) 資料 3-1・3-2 の説明。

(座長) エコツーリズム戦略の必要性として、多数の団体、制度、自然公園法など複雑化している知床世界遺産地域の統合的な管理、IUCNからの勧告、の大きく分けて 2 つの理由となるが、エコツーリズム戦略を作成する必要性を含めて意見は無いか。

(知床自然保護協会) エコツーリズム戦略は作成して欲しい。またエコツーリズムガイドラインを作成したときに「ガイド」、「エコツーリズムに従事するもの」と限定的な表現だったので、エコツーリズム戦略では、ガイド利用者以外の人たちにアピールするものを充実させてほしい。

(事務局) 対象は広くしたいと思う。戦略はルールを作成する前段階としており、評価軸を定め、それをもって個別のルールの作成と考えている。

(座長) 意見を整理すると、エコツーリズム戦略は作成し、対象は陸・海を含めて考える。さらにエコツアー事業者だけではなく、エコツーリズムに係る一般の利用者を含めて対象とする。ただし前回の会議では、観光全体を対象とするものではなく、例えばバスツアーや、ただお店に入って帰るような一般の観光客などは、除外するとの合意がなされているが、これについてはどうか。

(知床財団) バスツアーの中にも、エコツーリズムの要素を取り入れようとしているツアーもあるので、団体ツアーだからと言って全て除外するのは問題がある、しかし全てをエコツーリズム戦略の対象にするのもおかしい。その辺の兼ね合いがまだ見えていない。

(座長) 観光全体を対象として、遺産地域に入ってくる団体ツアーにもエコツアーに参加してはどうかと言うのか、観光振興計画の中で対象を決めて、エコツーリズム戦略の対象とするのか。観光協会はどうお考えか。

(知床エコツーリズム推進協議会) エコツーリズムは産業従事者が大きな意味を持っている。産業従事者、住民の位置づけを明確にしておかないと、エコツーリズムが成り立たない。

(知床羅臼町観光協会) 団体ツアーや個人などの方々がプラスアルファ、世界遺産のエリアに足を踏み入れ、産業に触れてもらうよう、提案や情報発信をしているので、全てを対象にした方が良い。

(中川委員) エコツーリズム戦略の作成にあたって、知床型エコツーリズムはどのようなもので、何を目指すか、ただの体験型ツーリズムとは違う知床型エコツーリズム定義を明確にしたほうが良い。

(座長) 最初に提案があった事業者に限られるとか、非常にコアな部分を集めるエコツアーで、学習プログラムが付いているとなれば本来のエコツアーだが、自然体験だけを目的としたものは、別に学習をしなくても自然を見に来ることが目的となっており、これがほとんどの知床を訪れる人の体制を占めているのであれば、広い意味で一般の自然体験ツアーのようなものも一部対象にする。ただコアになるのはエコツーリズムというように二つに分けて扱うとしたいと思うが、よろしいか。

(間野委員) 知床で実施される様々な観光活動が、エコツーリズム戦略に基づいてできたルールから外れるような利用は、受け入れられないという形になると思う。そうすると全てのものがエコツーリズム戦略に合致する形で実施されるはずと理解している。よって何が戦略の対象で、何が対象外かの議論はあまり意味がないと思う。

(座長) ここを訪れるほとんどの人は、知床世界遺産地域での体験を目的としているのであれば、区別せずに扱いたいと思う。ただし戦略の中ではエコツアーと、ただ見に来た程度の一般観光客は分けなければならないと思うが、対象としては知床世界遺産地域に来る観光客全体を対象とするとしたい。IUCNの定義とは、若干ずれができるが良いか。

(事務局) 基本的に知床世界遺産地域内で自然体験を想定するものは、ガイドの有無に関わらず対象にしていくことで良いと思う。

(座長) 事務局からも全体を対象として良いとのことだが、これで進めて良いか。

(中川委員) 危惧しているのは、体験型イコール、エコツーリズムの中に入ると捉えられているところがあるが、そうではなく環境学習など様々な条件の中で行なわれている

るのがエコツアーと思う。そこでエコツーリズムの定義の中で、エコツアーとは何かとはっきりさせないといけない。知床世界遺産地域内で行なわれる体験型の観光は、エコツアーでなければならないという形が、エコツーリズム戦略として良いと思う。

(座長) 同感だが、意見はあるか。

(知床財団) この場で戦略が必要と合意されれば、知床世界遺産地域エコツーリズム戦略はできると思うし、この中で入ってくる活動については、戦略から大きく外れてはならない。例えば、自然体験型ではないツアーにしても、ツアー全体はエコツーリズムとして正しくなくても良いが、そのツアーの中で五湖に行くのであれば、五湖の部分ではエコツーリズムとしてではなく、知床エコツーリズム戦略から外れてはいけないということになる。

(座長) 自然体験としないものも対象にするということか。

(知床財団) エコツーリズム戦略は、知床世界遺産地域に入る全てのものに対してカバーされるものと思う。

(松田オブザーバー) 適正利用の戦略を全体で決めることと思う。エコツーリズム戦略という言葉にこだわるのがわからない。適正利用の中でエコツーリズムが当然重視され、またそのほかの部分もあることから、全体としての整合性をとることを今議論しているのではないか。

(座長) 基本的に知床世界遺産地域に入ってくる観光客を対象として、エコツーリズム戦略は作られるということで良いか。

(事務局) 自然を利用する方が対象という、大きな枠で良いと思う。

(座長) 事務局からの回答、皆さんの意見を総合して知床世界遺産地域に立ち入る観光客は、全て対象としたエコツーリズム戦略が策定されることでよろしいか。(合意)

(知床羅臼観光船協議会) 戦略を策定することは良いが、それを違反したものには罰則を科すようなことができるのか。

(座長) 基本的に戦略なので、罰則は入っていない。

(知床羅臼観光船協議会) それでは意味がないと思う。観光産業を目的として発するものなのか、自然の保護を目的とするのか、最初に目標を設定しないと戦略がたたない。

(座長) 指摘のとおりであり、具体的な戦略の内容はワークショップで時間をかけて作る。

(事務局) エコツーリズム戦略を話し合うこの場が、利用と保護のバランスを考える場と思う。

(座長) 戦略自体の目的について何かあるか。エコツーリズム戦略を作る一つの目的は、従来の個別課題を解決するときに、共通のルールを参照するものがなかったので、非常に複雑になった経過がある。それを戦略の考えに従って個別課題の解決を進めるものとなると考えているが、これについて意見はないか。

(中川委員) 戦略を作るバックに、これまで適正利用の基本計画等があり、評価軸のようなものが漠然とあった。それらを参照しながらルール化していく作業が必要と思う。

(座長) 過去に作ったものと戦略の整合性はどのように事務局は考えているか。

(事務局) 次の議題に係る事項であり、資料を説明したい。

#### 資料 4-2 : エコツーリズム戦略と既存計画との関係

(事務局) 資料 4-2 の説明。

(座長) 世界自然遺産地域管理計画が大元にあるが、その下でエコツーリズム戦略を策定する。これまでの個別の検討や合意はエコツーリズム戦略に統合していき、推進計画も戦略に格上げとなる。エコツーリズム戦略ができた以降、順番に細かい計画を廃止や統合することになる。よって姿としてはエコツーリズム一つになるということだが、意見は無いか。

(知床保護協会) エコツーリズム戦略に統合することは賛成だが、その場合、知床世界遺産地域はエコツーリズムしか認めない、という宣言が必要と思う。遺産地域に入るにはエコツーリズムを徹底することが前提で、統合した方が良い。

(座長) 宣言については別に協議が必要と思う。意見は承っておく。他に意見は無いか。事務局に聞くが、今までに出来ている計画で期間が将来に渡って延びているものは、エコツーリズム戦略が出来たら順次廃止又はすぐに廃止か。

(事務局) 段階的になると思われる。エコツーリズム推進計画と利用適正化計画は検討会で合意をとり、一つにしていく過程のなかで、個別の計画で戦略に盛り込めないものは、別の計画として再整備の形となる。元々、適正な利用とエコツーリズムを統合してやりなさいという国際的な要請に、応えていきたいというのが、この会議の場を設けて議論する背景があり、それを基に資料 4-2 のイメージを持っている。

(座長) エコツーリズム戦略が出来たら順次廃止又は統合し、実施計画についても例外ではない。ただし戦略は大きいレベルで決めているので、実施計画のようなものは、戦略の下に管理実施計画のようなものを作ることになる。この作り方と統合後の姿について意見は無いか。

(庄子委員) 適正な利用とエコツーリズム戦略に統合することによって、その下に委員会やワークショップがぶら下がっているイメージか。

(座長) 戦略が出来たらそれぞれの部会は、統合されると考えている。

(事務局) 個別の会議については、大きな方針の基に段階的に統合していく。計画と戦略で違うところは、どうすれば実現していけるのかで、資料 3-2 にあったが、実現していくプロセスを含めて戦略の中で考えていくところかと思っている。そのような過程を踏めば、個別テーマの協議会や検討会でも戦略に盛り込んでいけるものは順次出てくると考えている。

(座長) 他に意見は無いか。エコツーリズム戦略は骨子の完成まで 2 年、最終の完成までに 3 年以内となっている。戦略は知床遺産地域に立ち入る観光客、レクリエーション客は全て対象となり、最終的に現在までに作られた計画や協議会も統合して、エコツーリズム戦略一つになる。以上の進め方で今後やってよるしいか。

(根釧東部森林管理署) 資料 4-2、「今後 2~3 年」の部分で、世界自然遺産地域管理計画とエコツーリズム戦略の間の矢印に連携とあるが、どのような意味か。

(座長) 基本的には世界自然遺産地域管理計画に従って、エコツーリズム戦略を作らないと意味がないので、このようになっている。ただ管理計画にエコツーリズムに関する記述は必ずしも十分でないのが現状である。戦略ができた時点

で、必要な部分については反映するのが望ましい。ただエコツーリズム戦略ができたからといって、管理計画を直す訳ではない。

(根釧東部森林管理署) ベースが管理計画という位置付けが変わる訳ではないとの理解で良いか。

(座長) 変わらない。ベースが管理計画で、それに従って、エコツーリズム戦略が作られる。ただ管理計画は作られてから時間が経っており、更新時期に合わせて直すことが望ましいと思う。他に意見が無ければ、次にプロセスについての協議に入りたいが良いか。(合意)

#### **資料4-1：エコツーリズム戦略と基本構造と策定手順**

(事務局) 資料4-1の説明。

(座長) ワークショップを中心とした策定手順について意見は無いか。

(羅臼遊漁釣り部会) 参加者を広く募るようだが、多く集まり意見が出れば良いが、現在も欠席者がいる中で限られた者だけで決めなければならない事態にもなりうるので、参加者は限定した方が良いのでは。

(座長) 参加者を限定した方は良いか、オープンにした方が良いか、意見は無いか。

(愛甲委員) オープンにしていろいろな意見を募る方が良いと思うが、しかしそこで全てを出そうとするのは無理だと思うので、まず委員会等で整理した上で意見を募るといふ、二段階方式が良いのでは。

(事務局) 合意がされれば、その形で進めて行きたい。今までこちら側で整理・計画等を進めてきたが、それでは押し付けになるので皆さんと一緒に作るという形にした。今、検討会議に参加の皆さんから意見を思うことは当然のことで、そこに色々な方からの意見をもらうことも良いとの考えから自由参加の形にした。ただこだわっている訳ではなく、この会をもってそれに変わることができるとの意見であれば、従う考えではある。

(座長) 原案作成委員会のようなものを設置して、参加できる方は参加したもらう形にして良いか。

(羅臼遊漁釣り部会) 趣旨はわかるが、現実には中々集まらないと思う。

(座長) 強制ではないので、忙しいのであれば次の段階で意見を述べてもらう機会はある。

(羅臼遊漁釣り部会) 傍聴の形にして、意見を聞いてもらうことで十分ではないか。

(座長) 原案作成の小さな部会を作った方が、全員で議論するよりも効率が良いのではないかという提案についてはどうか。

(羅臼遊漁釣り部会) それは良い。

(座長) 原案作成の部会を作りたいと思う。それは今のメンバーから自由に参加してもらい、原案作成・公聴会・協議会で決定との三段階で進めてよろしいか。

(合意)

(羅臼遊漁釣り部会) 部会でおこなったことはHP等、誰でも見られるシステムを作ってほしい。

- (座長) できたものは配布ができると思う。
- (事務局) HP で全て公開していきたい。会議の内容もメンバーに適宜知らせたい。
- (座長) 部会の開催時は、見学自由のオープンな部会で良いか。また、いきなり来て会議に参加することは運営上支障があるので、参加する場合は事前に表明してもらおう。
- (事務局) それで良いと思う。
- (座長) 以上のような進め方で戦略を策定して良いか。また、事務局の提案から、ワークショップ形式で原案を作ることだったが、部会で原案を作り、それを公聴会又はワークショップで検討した上で、この協議会で決定をするという原案の変更があったが良いか。
- (知床自然保護協会) ワークショップには一般の希望者は入れるのか。
- (事務局) 今まで適正利用等で地域の方に説明を行ってきており、そのイメージを持っている。流れとして原案作成部会でまとめたものを報告して、色々な意見をもらい、この会議に上げるという形となり、そのワークショップ参加は自由である。
- (庄子委員) ワークショップと検討会議の関係性はどのように考えているのか。ワークショップから上がってきたものが、協議会で否決された場合はどのように判断するのか。
- (座長) 骨子を作るのは1年間余裕があり、3月にもう一度この会議が開かれるので、最後に否決の形にはならないと思われる。
- (事務局) エコツーリズム戦略の策定は、各行政機関や地域のみんが共通して同じものを目指すという検討作業と思っている。ワークショップから上がった現場の情報をもらいながら、できるだけ骨子なり原案に反映をして、この検討会議において更にオーソライズしていく形となる。
- (知床エコツーリズム推進協議会) ツアーを利用する時、必ず法律上の制限がでてくると想定される。優先順位的にも管理計画はどのレベルのものと考えているのか。
- (座長) 戦略は関係者の合意で作られるので、法律をかえることとなると思うが、事務局はどう考えるか。
- (事務局) 法律に基づく運用は修正が可能と思っている。エコツーリズムの扱いはこの会議で議論をしてオーソライズされた内容に則して見直しをしていく形を目指したい。制度的に不可能な部分があれば、早い段階で議論の中で明らかになっていくし、それが本当に変更不可能か整理していきたい。
- (座長) 法律上全く不可能というものを除いて、戦略の中に書いても結構である。基本構造について意見はあるか。
- (愛甲委員) 資料4-1、4.「課題と解決の方法等」で課題とは前回の合意事項・課題事項に整理されている、各個別の検討課題のことなのか、資料4-2 エコツーリズム戦略の中に書かれている、「知床の魅力はどう守り、どう享受していく?」…なのか、どちらのことを指しているのか。
- (事務局) 両方網羅している。
- (愛甲委員) 個別の計画や協議会は、エコツーリズム戦略にぶら下がることになるのか。また最初から個別の課題を掘り下げていくと時間がかかってしまう。



これから骨子を作るので、資料 4-2 に整理してあるようなことを最初は検討した方が良くと思う。

(座長) 意見はもっともと思われるが、それについてどうだろうか。

(事務局) 戦略の中では大きな話をやっていく形を考えており、個別のものは後と考えている。個別の問題で戦略の中に食い込んでいくことが当然あるので、課題に出てくる。個別の細かい話をここでやりたい訳ではなく、個別の問題が知床全体で決まっていなくて、それぞれ問題になっていることがあるので、それらについては戦略の中で検討したい。

(座長) 他に基本構造について意見はあるか。

(愛甲委員) もう一点。評価軸を定めて目標を設定すると、これに達成状況の評価やモニタリングをしないといけない。

(座長) 意見はもっともと思う。他に意見は無いか。3つの基本(評価軸)は今後の部会・ワークショップに出る時に多少変更してほしい。エコツーリズムの戦略なので最初に「観光客に対する自然に基づく良質な体験の提供」あり、その為に「遺産地域の自然価値の保護」がある書き方にしてほしい。そして「保護」を止めて「向上」に変更してほしい。「価値の向上」が戦略の中で重視されると思う。その結果として「地域経済の発展」より「地域社会の充実」の方が望ましいと思うが。

(中川委員) 順番はこれで良いと思う。「遺産地域の自然価値の保護」があり、その中で「良質な体験の提供」があると思う。

(座長) エコツーリズム戦略と書いた時点で、利用が前提となるので「良質な体験」を優先してほしい。その為の保護だけではないし、元々保護しなければいけないという意見もあると思うが、それは管理計画が責任をもってやる部分でもある。そもそも世界遺産地域になった時に、皆さんの合意の下であるので、エコツーリズム戦略でできる限界はそこにあると思う。また部会の方で検討してほしい。エコツーリズム戦略の議論はこれで終了したいと思う。

#### (4) 個別会合における検討状況報告

**資料 6 : 知床五湖地区における検討の進捗状況**

**資料 7 : ウトロ海域の海鳥と海域利用のあり方について検討の進捗状況**

**資料 5 : 羅臼湖についての検討状況**

**資料 8 : 「明快版」利用の心得 WEB サイトの説明**

(事務局) 資料 6・7・5 の説明

(根釧東部森林管理署) 羅臼湖について報告したい。9月に羅臼湖の歩道、羅臼岳登山道、熊越の滝の遊歩道で多数のハイマツの欠損や木の幹への彫り付け等が見つかった。行為の理由は不明だが、現地は雑な扱いを受けている状況である。個人が勝手に手をかける行為は厳しく戒めていかなければと考えている。事務局3者による注意喚起のプレスリリースを9月22日に行った。知床のような広い地域の管理には、関係者全員の利用と管理に係る協力が必要と考えているので、状況報告をした。

(事務局) 資料 8 の説明

(座長) 以上の件で意見は無いか。

(知床財団) 資料 7 についてだが、ウトロ海域の検討だけを行っているが、羅臼側は検討しないのか。

(座長) ウトロ海域で行っているのは、共通課題を認識している方に集まってもらい、一步一步踏み出して行こうという形になっている。それが知床半島における海の利用と保護に繋がり、これが第一歩となれば良いと思っている。

(座長) 他に意見は無いか。

(知床財団) 今、資料 8 の WEB サイトを知床財団で手がけている。作成にあたっては戦略と合致すると確信しているが、岬の先端部の利用を制限するのではなく、積極的に魅力を楽しんでもらう、その為にはこのような事に気をつけなければならないという作りになっている。また岬の先端部に立ち入る際にはルサ・フィールドハウスに立ち寄り、帰りにも立ち寄って情報を落としていく仕組みを構築しようとの狙いも含まれている。お願いだが、環境省・羅臼町・北海道に予算を割いていただき、基本的には 1 名常駐、夏の繁忙期のみ、2 名常駐が可能という形となっているが、ルサ・フィールドハウスに立ち寄る目論見が上手くいった場合、1~2 名では対応できないので、そこを前向きに且つ、出来るだけ迅速に対応してほしい。

(座長) 他に意見は無いか。

(斜里山岳会) マイカー規制の協議会はいつ予定しているのか。また資料 1、「④知床連山の利用のあり方」、「⑥カムイワッカの利用のあり方」だが、協議会で方向性を検討すると書かれており、また前回の協議会で硫黄山関係の利用のあり方については関係機関と打ち合わせを持つとなっていたが、その後どのようなになっているのか。

(事務局) マイカー規制の協議会だが、管理者側で原案を検討し、それを持って協議会事務局で協議会に向けた原案を作成しているところで、12 月には行いたいと思っている。道道の通行止めによる課題については、北海道に整理をお願いしている。

(北海道) 道道の工事は今年度で終了する。その後の対応については、カムイワッカのマイカー規制協議会等を通じながら総合振興局、建設管理部の方で検討している。

(斜里山岳会) 前回の議事概要で、山岳会は「カムイワッカと硫黄山の登山口の利用については、マイカー協議会の主たる議題にならない」とし、対して事務局は「協議会の場で議論するという訳でなく、関係者が集まる機会を利用して別途相談しようと考えている」と答えているが、関係者が集まる機会を持つという理解で良いか。

(事務局) 協議会の打合せの機会に関係機関が集まるので、その場で意見交換したいということだが、今、何も進んではいなく、マイカー規制の内容について方針は固まっていない。

(斜里山岳会) 関係機関というには、行政機関だけだということか。

(事務局) 当時は行政機関だけで意見交換をしたいとのことだった。ただ関心があるということならば、そのような場を設けたい。

(座長) 他に意見は無いか。

(愛甲委員) 羅臼岳登山道補修の懇談会が開かれているが、山岳会も参加してい

るので意見を懇談会で聞くのも良いのでは。

(事務局) 懇談会では登山道の補修について技術的な面での意見交換の場となっている。これから運用の面で考えると将来的には、そのような意見交換の場を設けることも必要と思っている。ただ今年度は施設整備に限定した意見交換となっているので、来年度以降で期待に応えることができればと思っている。

(羅臼遊漁釣り部会) 道道についてはもう何年も進展していない。観光的に観ても重要な道である。しかし現実には通るものもおり、見ていない所では黙認している。安全を建て前に通さないのであれば、しっかりとした監視が必要である。永久に駄目なら駄目というべき。何か望みのあるような言い方で時期を延ばすのはおかしい。メリハリをつけないと実行性に乏しい。

(座長) この場で回答するには難しいテーマなので、座長預かりで良いか。必要なことがあったら、会議終了後に事務局から説明します。

(座長) 他に意見は無いか。

(知床羅臼観光船協議会) WEBサイトの運営の話ができたが、いろいろな情報がある中で、海の情報がほとんど配信されていない。情報を共有しようとうたわれている中で、海の情報として漁業生産活動等を配信しているつもりだが、さっぱり取り上げられない。それは全て経済活動や自然保護に関わると思うので、公平に扱ってもらいたい。

(知床財団) 観光船協議会からの情報は、羅臼ビジターセンターや知床財団のHPで取り上げているはずであり、またHPで旬の情報を配信している。

(座長) 他に意見は無いか。前回、知床五湖利用のあり方協議会、カムイワッカ湯の沢とカムイワッカ地区自動車利用適正化協議会について、部会化ができないか提案をし、1年以内に実現又は回答をするとなっていたが、その後の進展はどうなったか。

(事務局) まだメンバーの中で合意形成には至っていない。今回の会議の内容等を説明して、理解を得る作業を進めていきたい。

(座長) エコツーリズム戦略ができるとレベルアップをすることとなるので、整合性をとるために各協議会が部会化することが望ましく、関係者の声かけ、指導をお願いしたい。それは廃止ではなく、同じ協議の場が保障されるので、誤解のないように説明をお願いしたい。他に意見が無ければ、本日の会議を終了としたい。

## 主な合意事項

- ・第1回検討会議の内容の報告。
- ・エコツーリズム戦略の作成。
  1. エコツーリズム戦略は海域と陸域を統合して戦略を作る。
  2. 世界遺産地域に立ち入る観光客は全員対象となる。
  3. 今までの既存の計画やプランを統合していく。  
(担当した協議会や作業部会についても最終的には統合が前提となる。)
  4. 協議会と実施計画にはそれぞれ有効期限があるので、即時廃止ではなく時間がきたものから統合する。

5. 個別の計画についても現在検討が続いているが、エコツーリズム戦略の中で総合的に扱う。

6. エコツーリズム戦略の下に実施計画を作る。

(戦略は全体的なこと書き、その下に現場で対応可能な計画を作る)

7. 策定の方法は部会で起草し、パブリックコメントやワークショップをおこなう、最終的にこの協議会で承認をとる三段階方式に変更。

(部会には、今の検討会メンバーから参加表明をしたものが参加)

8. エコツーリズム戦略の性格は、全体を統合するもので、10年間の計画プランで策定する。完成すると従来の計画や自然保護法、その他の法律に基づくいろいろな現場での対応を含めて、戦略に従って変更をしていくことになる。

- ・ 個別課題についての報告。
- ・ 協議会については部会化を順次進めることで継続審議。

(閉会)